

来月の日米シニア親善野球

高松の松本さん参加へ

青春期 特攻隊で自爆訓練

日米の元兵士らが「武器をバットに」持ち替えて野球をする「日米スーパースニア親善野球試合」。12月にハワイで開かれる大会に、県内からは高松市一宮町の松本敏行さん(80)が出場する。

松本さんは1945(昭和20)年、広島県で特攻の訓練を受けていて、出

撃することなく終戦を迎えた。

松本さんは44年9月、県立高松工業学校(現在の高松工業高校)4年のとき志願し、予科練生になった。松山市の海軍航空隊に配属され、飛行機の通信訓練などを受けていた。9カ月後の45年6月、泳げる者50人ほどが集められ、船で広島県呉市の南約4キロにある情島付近の軍艦日向に連れていかれた。特攻隊に命じられ、「くるべき時がきた」と腹をくくった。

「伏龍特別攻撃隊」。松本さんが配属された特攻隊だ。潜水服を着てボ

ンベを背負い、爆薬を付けた長さ約5メートルの竹棒を持ち、岸から20〜30メートルまで海底を歩く。そこで

待ち受け、底を突いて自爆する隊だった。

「敵の砲撃で、潜る前に海岸で殺される。この特攻は役に立つとは思わ

なかった」と松本さんは振り返る。それでも「命令だから仕方がない。国を守りたい気持ちもあった」という。ただ、装備



日本チームの初の合同練習で打撃練習する松本敏行さん＝15日、高松市鬼無町鬼無の市西部運動センターで

が足りず、訓練は3日に1度しかなかった。ボンベの操作も難しく、過って3人が亡くなった。

8月6日、広島市に原爆が落とされた。「『ドーン』という大きな音が出て、空を見るとキノコ雲が広がった。新型爆弾と聞いたが、日本が負けるとは夢にも思わなかった」。突撃は8月下旬ごろのうわさだった。

ただ、突撃を命じられる前に終戦。松本さんは8月25日、空襲で焼け野原となった高松に帰って

きた。その後、38年間、刑務官として勤務。受刑者などのソフトボール指導を続けた。現在は県ソフトボール協会副会長を務め、日本ソフトボール協会の終身審判員でもある。

松本さんは12月、試合のあるハワイに出発する。初めての海外旅行だ。「私は実際には戦っていない。米国に対してどうこう言うことはない。友達のような関係を目指し、親交を深めた」と話している。